

危機管理に関する国際学術会議の開催にあたり。 -- 日本へのメッセージ

国際予防医学リスクマネジメント連盟 (URMPM) 理事長

酒井 亮二

医療のための危機管理とクライシス・コミュニケーションに関する世界会議

<http://www.urmpm.org/JCrisisMan2010/>

2010年11月1日～11月2日、東京大学

URMPM は世界 70 か国以上の会員、ならびに国連傘下の諸機関や OECD などの国際機関のメンバーから構成されています。2002年にスイスに本部を設立し、現在は本部を東京に移転し、米国大陸の事務局と共同し、24時間体制で全世界をカバーします。URMPM はアジア、欧州、米国大陸に地域会長がおり、日本のような国単位の学会もあり、それぞれ独自の活動を行っております。

ハイチ震災を通じ、アフリカやアメリカの会員から危機管理に関する国際学術会議を日本で開催してほしいとの声が届きました。海外の多数の URMPM 国際顧問や理事、および日本予防医学リスクマネジメント学会 (JSRMPM) の役員の方々からの多大な協力と助言の下に、上記の国際会議を東京で開催する運びとなりました。

事故・災害の予期せぬ発生可能性への対応であるリスクマネジメントに関する科学の急速な発達と比べると、事故後の対応であるクライシスマネジメントに関する科学の発達は特に近年遅れています。それが、地球で事故・災害の規模が拡大する原因の1つです。

本会議では、事故・災害の発生時およびその後に直面して、コミュニケーションを含めた適切な対応とはどうあるべきかという緊縛の課題を検討するために、日本を含めた世界各地の多分野の専門家が一堂に会し、2日間にわたり討議します。

災害と事故は予防や被害軽減が可能です。そのためには、危機におけるマネジメントとコミュニケーションに関する知の形成も急務です。様々な過去の事例から知を集積して、新たな知の形成すること、つまり、広範な方々からの意見に真摯に耳を傾ければ、自分の抱える具体的な問題解決のヒントを見出すことが可能です。

基調講演、教育講演、特別講演、関連講演および国際シンポジウムに際しては、スライドは英語と日本語が併用され、日本人の講演は日本語で行われます。また、海外からの英語講演にはプロによる日本語への通訳が行われます。高度先進国だけが加盟できる国際機関である OECD (本部パリ)からは、その東京支部を通して最新の危機管理戦略に関する特別講演が行われます。

同時に、日本人向けの日本語ワークショップも開催されます。また、一般演題が口演やポスターによって発表されます。

以上、医療安全、感染症対策ならびに災害での救急医療といった広範な分野から、危機管理に関する盛りだくさんの話題が提供されます。他の分野の進んだ危機管理システムについて耳を傾けることにより、明日の新しい医療を構築しましょう。

すでに参加登録者の中には日本における著名な方々も多数お集まりになっている、と聞き及んでいます。秋の日に日本で開催されるこの学術会議は世界からも注目されており、いよいよ会議開催が近づいてまいりました。